

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492300163	事業の開始年月日	平成26年4月1日
		指定年月日	平成26年4月1日
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき前川		
所在地	(256-0813) 神奈川県小田原市前川540-5		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年11月4日	評価結果 市町村受理日	令和8年4月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様が少しでも楽しく自分らしく過ごして頂けるよう個々の対応に力をいれ月1回入居者様の様子をご家族様宛に新聞として発行しご家族様にもしっかき様子を報告しご家族様が安心して施設に親御様を預けてよかったと思っただけの施設です。また地域との交流を大切に懇談会に出席して地域とも交流を深めている施設です。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年2月18日	評価機関 評価決定日	令和8年4月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

JR国府津駅からバス停小学校前で下車し、徒歩10分足らずの海を見下ろす高台の住宅街に位置する2階建て2ユニットのグループホームです。法人は大阪を拠点とし、神奈川県内に3つのグループホームを運営しています。

＜優れている点＞、
理念の実現のための具体的な行動基準を定めて支援活動につなげています。職員側の思いを押し付けず、強制したり先回りをせず、まずは利用者の思いを汲み取り尊厳を守る支援に努めています。小田原市・地域包括支援センター・自治会・ボランティア・学校関係など地域の組織や人と幅広く関係を築き、地域に根ざした事業所づくりに努めています。家族との連絡を事業所から積極的に働きかけ、利用者に関する良いことも困ったことも率直に伝えることで家族との信頼関係を築いています。また、各種委員会・研修の資料作りや開催を法人と共同で行うなど、事業所単独ではなく法人全体で職員教育に取り組んでいます。

＜工夫点＞
経験の浅い職員でも対応できるよう、食事・入浴などすべての生活場面の支援方法を身体状況やADLに合わせた一覧表で共有しています。スプーンの大きさや形まで一人ひとりの利用者に合わせて設定しています。夜勤・日勤のシフトの違いによる情報共有は、入り口のボードで決定事項や連絡事項を周知しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を基にサービス提供に努めています。	利用者の尊厳を守るには自主性の尊重が最も大切との理念を掲げています。その実現に向けて、業務を優先して利用者を急がせたり行動を強制したりしないなどの具体的な行動基準を玄関に掲示し職員だけでなく来訪者にも広く示しています。日々の出勤時に職員の目に触れるようにすることで、理念を日常支援に反映させるよう全職員に徹底しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域包括センターと連携し、地域の方々と施設が主体となり毎週1回地域交流としてラジオ体操を：地域住民の方と行なっています。	地域包括支援センターが開催する地域住民向けラジオ体操に協力し、利用者も参加して地域住民との交流を図っています。備蓄品を事業所の必要分以上に準備し、近隣の災害避難所として地域の一員として備えています。建物オーナーから地元情報を得たり相談するなど、日常的に地域との関係づくりに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、施設の情報開示や報告を行なっています。 災害時には風水害避難所として地域住民の受け入れも行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の取り組みや実施状況を報告し施設運営に活かしています。	地域包括支援センターや建物オーナーが出席し、事業所の運営状況や職員募集の状況、ボランティアの受入れなどについて報告して意見やアドバイスを受け、運営改善に活かしています。コロナ・インフルエンザの感染状況が落ち着いた後は、家族なども含めた出席者の範囲拡大を計画しています。	家族なども含めたすべての構成員が参加できる会議体制づくりが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	災害時の一時受け入れや：施設開放等の依頼や、生活保護者の受け入れ相談等について連携をしています。	介護保険の区分変更や更新の際には高齢介護課と連携しています。小田原市のグループホーム連絡会（約20事業所）に毎月参加し、他事業所との情報共有を通じてサービスの質の向上を図っています。市が提携している有料ボランティアも活用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待委員会を3か月に1回開催し事例検討等を例題にし研修を行っています。	管理者が法人と共同で作成した教材を使用し、身体拘束防止委員会と研修会を開催し、テストや自己チェックシートで研修結果を確認しています。年に複数回法人も出席し、事業所全体で取り組む体制を整えています。家族にも身体拘束防止の内容や事業所の取り組みを説明しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加し、施設内にて改めて研修会を開き情報共有し職員へ周知徹底しています。	身体拘束防止委員会と同日に開催し、法人と共に作成した教材を使用しています。テストや自己チェックシートも同様に実施し、職員一人ひとりの気づきと自己点検を促しています。ネグレクトは職員の体調不良時に生じるリスクにつながるとの認識から、業務に支障があると判断した場合は帰宅を促すなど、未然防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必要なケースの場合は施設管理者が対応しその後職員へ周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には専門用語は使用せず誰にでも理解して頂けるよう時間を掛け丁寧に説明し、理解して頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設管理者が定期的に入居者様の御家族に定期連絡し要望などをお聞きしその旨を職員へ申し送り等にて発信しています。	家族との連絡は待ちの姿勢をとらず、事業所から積極的に働きかけています。利用者の体調変化や衣服など私物の入れ替え連絡の際にも、その用件にとどまらず家族の様々な意見や意向を聴き、運営に反映させています。家族の都合に合わせ、面会時・電話・スマートフォン・パソコンなどを使い分けて丁寧な連絡を心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議や：定期の研修会を開催し職員の意見を聞く機会を設け業務に反映させています。	研修などで来訪した法人の管理職が職員に直接面談し、現場の意見を聴いて運営改善に活かしています。食レクは職員が意見を出し合い、ケーキを一から手づくりするなど多様な企画を実現しています。バーガー作りの際は具材の組み合わせを利用者の選択に任せ、職員は見守りに徹することで自己決定を尊重しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社管理職が代表に代わり施設訪問を行ない管理者以外の職員意見や職員個々の意見を施設管理者と状況把握に努めています。	職員が働きやすい環境づくりを重視し、事業所内の人間関係を大切にしています。常勤・派遣など多様な雇用形態の職員が協力し合える環境づくりに積極的に取り組んでいます。週に複数回ある3人体制の時間を外出支援に充てることで、職員一人ひとりの負担を軽減しながら利用者支援の充実を図っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内にて定期的に介護技術研修等を行っています。	職員の資格取得を積極的に支援し、介護福祉士資格を取得してフロア長やリーダーとなったパート職員もいます。新人職員には一定期間ベテラン職員がマンツーマンのOJTを実施し、着実なスキルアップを図っています。シフトの都合で研修に参加できない職員にも研修資料の確認を義務付け、全職員が学びを共有できる体制を整えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入し地域の他施設の管理者との交流を施設管理者が行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要に応じて施設管理者が職員個々と面談をし個々の状況把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	定期的に施設管理者が御家族に連絡をとり御家族の意見に耳を傾け相談の応じて問題解決しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談を受けてから状況把握に努め早急に問題解決を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様本人や御家族と共に悩み楽しい時も、悲しい時も家族のように支えあっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とも一緒に悩み考え気持ちを分かち合える関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様の個々と向き合い、気持ちを尊重しお話しやすい環境作りを行なっています。	正月には複数の利用者が自宅に帰省するなど、馴染みの場との関係を大切にしています。コロナ収束後もインフルエンザの流行で友人や近所の面会は限られていますが、利用者の様子を問い合わせる同級生がいるなど地域とのつながりは続いています。テレビに合わせて懐かしい歌を歌うなど、馴染みの文化も日常に取り入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様個々の特徴を把握し、食席やレクリエーション時など個々に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もやり取りを行ない現状の様子などを聞き関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3か月に1回入居者個々のアセスメント、モニタリングを行ない入居者個々の状態把握に努めています。	日常の関わりの中で利用者が希望を直接管理者や職員に伝えられる関係づくりを大切にしています。ラーメンが食べたい、甘い物が欲しいなどの希望に対し、おやつにカップラーメンや甘納豆を提供するなど柔軟に対応しています。ほとんどの利用者が自ら意思を表明できる状態にあり、できる限り希望の実現につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時の面談にて過去の生活歴を把握し、御家族や親族から情報提供をお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントにて生活歴、既往歴を把握し個々のケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子をケアスタッフに情報提供を求め担当者会議にてケア方法を検討し介護計画書作成に活かしています。	3ヶ月の短期目標に合わせてアセスメント・モニタリングを実施し、食事・排泄・入浴の様子を職員チームで観察・確認した上でケアプランを作成しています。家族の意向を踏まえながら利用者の身体状況の変化に対応し、その人らしい生活の実現を目指したケアプランの作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当者会議にてケア方法を定め介護計画書を作成し実施して頂き生活記録に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者個々の様子観察を行ない状況に応じた対応をご家族に提案し対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の状態に合った事を積極的にとり入れるよう支援していきます。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医と連携をはかり必要に応じて御家族を交え相談を行ない、外部受診必要性や受診へのサポートを行なっています。	利用者全員が提携医療機関の訪問医をかかりつけ医とし、外部の専門医の受診には家族が同行しています。訪問医は2週間に1回往診して健康管理にあたるほか、電話診察で薬の処方にも対応しています。24時間体制で夜間の緊急対応もあり、医療機関と連携しながら利用者が適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と訪問診療との連携をはかって支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有にて話し合いを行ない状態把握に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に御家族に意向を伺い急変時や状態低下に伴い重度化の指針の説明や看取り介護についての同意書の説明を行ない同意を得ています。	入居時から重度化した場合の家族の意向を確認し、方針の共有を図っています。その後、利用者の状態の変化に応じて他施設への転居か事業所での看取りかを家族と話し合っています。看取り介護では食事・水分摂取についても丁寧に説明し、家族の意向に沿った支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や緊急時のマニュアルに従い周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法律で定められた年2回の消防訓練を行なうなどし、また今後は事業継続計画：実践指示書に沿い避難訓練等行なっていきたいです。	防災訓練では通報・消火・避難誘導などを実施しています。夜間を想定した訓練にはほぼ全職員が参加し、防災意識の向上を図っています。BCP(業務継続計画)研修・訓練では職員が実際に車いすに乗って地域の避難場所に行き、段差や起伏を体感しながら車いすの押し方を確認するなど、災害時に備えた実践的な取り組みを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者個々の尊厳に配慮しての言葉掛けを行なっています。	家族から生活歴などを聞いた上で、利用者一人ひとりの状況に合った声かけや呼び名に配慮し、その人らしさを大切にしています。食器洗い・食器拭き・リネン交換など生活経験にもとづいた役割を引き出すことで、生き生きと生活できるよう支援しています。家族との面会は居室で行い、プライバシーを確保しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者個々が主張できる環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個々に強要することはせず自身のペースで生活して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身の意思にて選んでいただき自身で行えるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみメニューを取り入れたり食事レクリエーションを行ったりし食を楽しんでいただいております。	食材は専門業者に委託し、職員が味付けを工夫しながら調理しています。食事前には嚥下体操を実施し、誤嚥を防止するとともに食事への意識を高めています。正月には利用者が主体となって白玉作りに取り組み、職員は見守りながらサポートしています。年末年始やクリスマスには特別メニューを提供し、行事食を楽しむ支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合った食形態の提供や1日の食事量、水分量の把握し個々の健康状態の維持を行ない栄養バランスのよい食事提供に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施を自身で行えるという支援をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態に合わせた排泄方法を取り支援しています。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表で3～4時間の間隔を確認しながら声かけしています。それ以外は利用者からの申し出がない限り声かけをせず、利用者の排尿の感覚と自己決定を尊重しています。自発的なトイレでの排泄を促すことで、リハビリパンツ・パッド・オムツの使用量の減少という自立支援の成果につながっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設内の運動量は少ない為、近くへの散歩実施などを行ない腸の動きを少しでも良く出来ればと思い行なっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	大きな施設と違いゆったりとした時間を設け個々に合わせた入浴の支援を行なっています。	浴槽をまたげない利用者にはバスボードを使用して安全に浴槽に浸かれるよう支援しています。入浴を希望しない人には浴室の外で待機し、タイミングを見ながら働きかけています。それでも入浴を希望しない人には家族と相談し、清拭や皮膚ケア用クリームを使用して清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者個々の身体状況に合わせ個々の気持ちを尊重した休息：安眠できるような支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	声掛けにて意思を尊重し服薬管理します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自身にて出来ることを自身にて行なえるよう支援し、職員のお手伝いを積極的に声掛けにて行って頂くなど活動の幅を広げられ日々少しでも充実した生活がおくれるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出レクリエーションの実施を積極的に行なうのと、日々近隣への散歩の実施や地域の方々とのラジオ体操に参加するよう支援しています。	天候の良い季節には事業所周辺を散歩し、気分転換や体力維持を図っています。浅間神社で行われる地域のラジオ体操に参加し、地域の人とのふれあいを大切にしています。一方、職員体制の課題もあり、ここ数年外出レクリエーションの実施が難しい状況にあり、体制整備が求められます。	施設外での支援ができるように職員体制を整え、以前のように蘇我の梅まつりや大磯の吉田邸、上府中公園など、外出レクリエーションを実施することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は行なっていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お手紙に関しては返信のお手伝いをさせて頂いたりし、また電話に関しては個々で携帯電話を利用いただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるような空間に装飾などを一緒に制作したりしています。	明るく広いリビングの窓からは海が一望でき、潮風を感じられる開放的な環境です。死角がなく見通しの良い造りにより、居室の出入りなど利用者の動きを把握できる環境になっています。コーナーに設置したソファは利用者同士や職員との団らんの場となっています。廊下の幅が広く車いす同士が余裕をもってすれ違えるなど、安全性を確保しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にては個々が自由に移動して自身の意思を尊重しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は個々の好みにより置物や掲示物など自由な空間にして頂いています	介護ベッドとエアコンを備え付け、寝具とセンサーマットはレンタルで対応しています。入居時に、転倒リスクのある大型家具の持ち込みは控えること、季節の衣類交換や補充は家族に依頼することを説明しています。利用者は小型の衣装ケースやチェストなどを持ち込み、シンプルな環境を整えることで安全性を確保しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々が出来ることを意思を尊重し少数の施設のメリットを活かし行なっております。		

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を基にサービス提供に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域包括センターと連携し、地域の方々と施設が主体となり毎週1回地域交流としてラジオ体操を：地域住民の方と行なっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、施設の情報開示や報告を行なっています。 災害時には風水害避難所として地域住民の受け入れも行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の取組みや実施状況を報告し施設運営に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	災害時の一時受け入れや：施設開放等の依頼や、生活保護者の受け入れ相談等について連携をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待委員会を3か月に1回開催し事例検討等を例題にし研修を行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加し、施設内にて改めて研修会を開き情報共有し職員へ周知徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必要なケースの場合は施設管理者が対応しその後職員へ周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には専門用語は使用せず誰にでも理解して頂けるよう時間を掛け丁寧に説明し、理解して頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設管理者が定期的に入居者様の御家族に定期連絡し要望などをお聞きしその旨を職員へ申し送り等にて発信しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議や：定期の研修会を開催し職員の意見を聞く機会を設け業務に反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社管理職が代表に代わり施設訪問を行ない管理者以外の職員意見や職員個々の意見を施設管理者と状況把握に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内にて定期的に介護技術研修等を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入し地域の他施設の管理者との交流を施設管理者が行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要に応じて施設管理者が職員個々と面談をし個々の状況把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	定期的に施設管理者が御家族に連絡をとり御家族の意見に耳を傾け相談の応じて問題解決しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談を受けてから状況把握に努め早急に問題解決を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様本人や御家族と共に悩み楽しい時も、悲しい時も家族のように支えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とも一緒に悩み考え気持ちを分かち合える関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様の個々と向き合い、気持ちを尊重しお話しやすい環境作りを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様個々の特徴を把握し、食席やレクリエーション時など個々に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もやり取りを行ない現状の様子などを聞き関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3か月に1回入居者個々のアセスメント、モニタリングを行ない入居者個々の状態把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時の面談にて過去の生活歴を把握し、御家族や親族から情報提供をお願いします。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントにて生活歴、既往歴を把握し個々のケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子をケアスタッフに情報提供を求め担当者会議にてケア方法を検討し介護計画書作成に活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当者会議にてケア方法を定め介護計画書を作成し実施して頂き生活記録に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者個々の様子観察を行ない状況に応じた対応をご家族に提案し対応を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の状態に合った事を積極的にとり入れるよう支援していきます。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医と連携をはかり必要に応じて御家族を交え相談を行ない、外部受診必要性や受診へのサポートを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と訪問診療との連携をはかって支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有にて話し合いを行ない状態把握に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に御家族に意向を伺い急変時や状態低下に伴い重度化の指針の説明や看取り介護についての同意書の説明を行ない同意を得ています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や緊急時のマニュアルに従い周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法律で定められた年2回の消防訓練を行なうなどし、また今後は事業継続計画：実践指示書に沿い避難訓練等行なっていきたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者個々の尊厳に配慮しての言葉掛けを行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者個々が主張できる環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個々に強要することはせず自身のペースで生活して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身の意思にて選んでいただき自身で行えるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみメニューを取り入れたり食事レクリエーションを行ったりし食を楽しんでいただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合った食形態の提供や1日の食事量、水分量の把握し個々の健康状態の維持を行ない栄養バランスのよい食事提供に努めます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施を自身で行えるという支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態に合わせた排泄方法を取り支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設内の運動量は少ない為、近くへの散歩実施などを行ない腸の動きを少しでも良く出来ればと思行なっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	大きな施設と違いゆったりとした時間を設け個々に合わせた入浴の支援を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者個々の身体状況に合わせ個々の気持ちを尊重した休息：安眠できるような支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	声掛けにて意思を尊重し服薬管理します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自身にて出来ることを自身にて行なえるよう支援し、職員のお手伝いを積極的に声掛けにて行って頂くなど活動の幅を広げられ日々少しでも充実した生活がおくれるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出レクリエーションの実施を積極的に行なうのと、日々近隣への散歩の実施や地域の方々とのラジオ体操に参加するよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は行なっていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お手紙に関しては返信のお手伝いをさせて頂いたりし、また電話に関しては個々で携帯電話を利用していただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるような空間に装飾などを一緒に制作したりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にては個々が自由に移動して自身の意思を尊重しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は個々の好みにより置物や掲示物など自由な空間にして頂いています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々ができることを意思を尊重し少人数の施設のメリットを活かし行なって頂いています。		

2025年度

事業所名 グループホームみさき前川
 作成日： 令和8 年 4月 27日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる取り組み	施設内にて定期的に研修や勉強会を実施していく。	研修の内容は統一し、職員の個々のレベルに合わせたメンバーにしグループワークにて勉強会や研修を行ない必要に応じて管理者自ら個別指導を行なう。	12ヶ月
2	27	個別の記録と実践への反映	日々の入居者様の様子やケア方法を管理者出勤時には申し送り兼にカンファレンスを行ない実施状況や問題点を上げ瞬時に実施できるよう担当者会議にとらわれることなく実施していく。	日々の記録書式の変更と申し送りの回数の増加を併用し日々の申し送りにての報告で問題点を把握：情報共有するシステム化し瞬時に実施できるようにする。	12ヶ月
3	6	虐待の防止の徹底	座学の研修だけでなく入社時や研修時に自己チェックシートを使用し日頃の介護の様子を振り返りチェックシートに記入していただき防止に努めています。	全職員にて実際の入居者様等を対象にして介護技術演習などを行ない研修を行なうなどすると同時に法人作成の高齢者虐待・身体拘束自己チェックシートを使用し虐待防止に努めています。	12ヶ月
4	16	災害対策	通常の全体防災訓練以外に地域住民と職員向けの災害対策BCP研修を行なうなどし介護施設での災害対策の必要性や地域密着型の施設の理解を全職員で深めていく。	自治会との合同にて施設側で行なっているBCP（災害時事業継続計画）の野外での演習訓練を合同で行なう。	12ヶ月
5	3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の開催時に自治会長、地域包括支援センター職員、建物オーナーなどの参加の他のご家族が参加できるように声掛けし日程調整を行なう。	御家族の参加を促し運営推進会議の場を借りて施設と地域との関係や家族の方からのご意見や要望をお聞きして開かれた施設運営を行なっていく。	12ヶ月